

最低保障年金制度～外国の事例から

全日本年金者組合

副委員長・社会保険労務士 吉田 務^{よしだ つとむ}

1 はじめに

マーサーCFA協会は、毎年「グローバル年金指数」を公表し、各国の年金制度を「十分性」「持続性」「健全性」などの指標にもとづき「総合指数」を算出している。ランクはAからEまであり、「総合指数・最大100」として、Aランクは80超、B+ランクは75-80、Bランクは65-75、C+ランクは60-65、Cランクは50-60、Dランクは35-50、Eランクは35未満となっている。2020年10月20日発表された最新のグローバル年金指数によれば、オランダが3年連続の1位、デンマークが2位となっている。

日本の年金制度は39カ国・地域中32位と、「対応の必要がある大きな弱点・不備」が明らかかな「Dランク」である。無論このランク付けを絶対視するものではなく、あくまでも参考である。

全日本年金者組合の最低保障年金制度第3次提言が「最低保障年金制度がある国」とした15カ国中のA・Bランクをみると、Aランクがデンマーク(81.4)、Bランクがオーストラリア(74.2)、ノルウェー(71.2)、スウェーデン(71.2)、カナダ(69.3)、ニュージーランド(68.9)、アイルランド(65.0)の7カ国となっている。

この小論では、最低保障年金制度がある国の前述A・Bランクの国について、紙数に限りがあるので、最低保障年金の内容と老齢給付に照準をしばり、その特徴を見てみる。

はじめに、日本と比較してみる上で、国の規模、国内生産能力、消費税について日本の指標をあげておく。

日本 ◆人口 1億 2720 万人 ◆人口1人当たりのGDP 453万円 ◆消費税 10%

2 主要国の最低保障年金制度

■デンマーク

1. ■人口 577万人 ■人口一人当たりのGDP 673万円 ■消費税 25%
2. 公的年金は国民年金と労働者市場年金・労働者付加年金の2階建て、3階部分の個人年金がある三階建て構造となっている。1階部分の国民年金が最低保障年金である。
3. 国民年金(1階部分)
 - ①財源は100%国庫負担。②デンマーク国民は15歳から65歳の間で最低3年、外国籍の者は、支給開始年齢前の5年を含む最低10年の国内居住要件がある。
 - ③支給開始年齢は65歳、2030年には68歳となる予定である。
 - ④基本受給額 基礎給付(満額)73,920DKK(デンマーククローネ)(約131.7万円)(これは国民平均所得の約19%に相当する)、40年居住で満額、居住年数減に比例して減額される。

⑤加算給付(満額)78,612DKK(約140.1万円)(単身者)、夫婦一人当たり 38,676DKK(約69万円)

4. 居住年数のみが要件となる国民年金の基礎給付と加算給付が、最低保障機能を果たしている。

■オーストラリア

1. ■人口 2520万人 ■人口一人当たりのGDP 608万円 ■消費税 10%
2. 公的年金は、社会保障年金(老齢年金)と退職年金保障の2階建て構造である。1階の社会保障年金(老齢年金)が最低保障年金にあたる。
3. 社会保障年金は、①全額国庫負担であり、②支給開始年齢は65.5歳。③所得制限と資産制限をし、低所得層の所得保障を主眼としている。一定以上の所得または資産がある者は減額される。所得および資産制限は厳しく、老齢年金(Age Pension)の受給者数は250万人(2015年)で受給開始年齢以上人口の70%である。
④基本受給額は、2週間で単身者862.20豪ドル(71,813円)、夫婦各622.80豪ドル(51,873円)(2018年第2四半期現在)。4週間単位でみると単身者が143,626円、夫婦各103,746円となる。
⑤居住要件としては、オーストラリア国内に原則として連続して10年以上の居住期間を有していたことが必要である。
⑥社会保障年金には、身体的、知的、精神的障害により労働ができない者に対して障害補助年金(Disability Support Pension)もある。

■ノルウェー

1. ■人口 538万人 ■人口一人当たりのGDP 832万円 ■消費税 25%
2. 公的年金は最低保障年金とインカム年金の組み合わせである。インカム年金＝個人が積み立てた年金準備金、物価上昇、平均余命、支払い開始年齢に応じて調整される年金
3. ノルウェーの社会保険制度で使われる概念として基礎額(G)というものがある。ノルウェーで「最低限の生活をするための必要な金額」を意味しており、2019年5月1日現在の金額は年間99,858クローネ(約130万円)／月額8,322クローネ(約11万円)である。基礎額は毎年国会において決められている。
4. 最低保障年金は、①年金額(満額) 年間190,368クローネ(約248万円)／月額約21万円 ②3年以上居住していれば受給資格を得るが、満額受給のためには40年居住が必要である。③単身者の場合の満額は基礎額の2倍、夫婦の場合、一人当たり基礎額の1.85倍の水準である。居住年数が40年に満たない場合は、年数に比例して減額される。このようにして計算した額から当人のインカム年金額の80%相当額を差し引いたものが実際の最低保障年金となる。

■スウェーデン

1. ■人口 1,004万人 ■人口一人当たりのGDP 587万円 ■消費税 25%

2. 公的年金は、保障年金と所得比例の組み合わせである。保証年金が最低保障年金に該当する。
3. 保証年金は、①無年金者・低年金者を対象とし、②25歳以降の居住期間(EU/EEA 地域もカウント)が必要で40年の場合に満額となる。③財源は国庫で負担する。④65歳から支給される。
 - ⑤保証額は、物価を基準として決められる。ちなみに2020年度における物価基礎額は 47,300SEK(スウェーデンクローナ)(614,600 円)、(所得基礎額は 62,500SEK(812,103 円)である。
 単身世帯の場合、物価基礎額の1.26倍までは物価基礎額の2.13倍まで保証する。つまり保証額は物価基礎額の2.13倍と所得比例年金額の差額になる。所得比例年金が1.26倍を超えると、保証額は所得比例年金の増加額の48%相当が減額され、所得比例年金額が物価基礎額の3.07倍となったところでゼロになる。
4. 保証年金の支給の支給基準額は消費者物価指数をもとに改定される物価基準額によっており、所得額を基礎として改定される所得比例年金に比較して相対的な支給水準を長期的に低下させていくものと予想されている。2020年1月から保証年金の最大保証額が月額約200クローナ(2,600 円)引き上げられた。

■カナダ

1. ■人口 3740万人 ■人口一人当たりのGDP 517万円 ■消費税 5%
2. 老後の所得保障制度は3階からなり、1階と2階が公的年金制度を構成する。3階は私的年金と貯蓄である。1階の老齢所得保障(OAS)プログラムが最低保障年金に該当する。
3. OAS年金は、全額国庫負担の連邦政府のプログラムで、基礎年金のOAS年金のほか、GIS(補足所得保障)等の付加給付がある。OASは課税されるが、GIS、手当及び遺族手当は非課税である。 OAS=Old Age Security=老齢年金
4. OAS年金は、①18歳以上10年以上カナダに居住した、②65歳以上の者に毎月支給される。国外に居住してOAS年金の受給を希望する場合の居住要件は20年である。
 - ③カナダ在住の年金受給者のうち、所得が一定水準以下の低所得の年金受給者にはOAS年金に付加して補足所得保障(GIS)が毎月給付される。さらに手当(Allowance)が、OAS年金及びGISの受給者又は受給資格者の配偶者等で18歳以降10年以上カナダに居住した60歳から64歳の者に毎月支給される。
 - ④OAS年金の満額給付月額 CA\$ (カナダドル)565(5万675円であり、OAS受給者の平均年金月額 CA\$ 520.03(4万6千円)である。所得に応じて減額される。
5. 可処分所得(年額)がCA\$ 72,809(約64万円)という高額所得者は、基準を上回る所得額に応じてOASの給付額の15%を払い戻さなければならない(クローバック制度=所得再配分機能)。

■ニュージーランド

1. ■人口 478万人 ■人口一人当たりのGDP 480万円 ■消費税 15%

2. 年金制度は、全国民強制加入の老齢年金と自発的退職積立金制度から構成される。
3. 老齢年金は、①財源は一般財源100%の国庫負担であり、②支給開始年齢は65歳。
 - ③20歳以降10年以上居住しており、50歳になってから5年間の居住期間があれば支給権が発生する。
 - ④給付水準は、標準時間週当たり賃金の65%以上72.5%以下となるよう法定されている。所得制限のない定額給付である。
 - ⑤基本給付額 単身者 NZ\$(ニュージーランドドル)801.74(62,282円) 夫婦一人当たりNZ\$ 616.72(47,909円)である。これは、2週間当たりの支給額であり、4週間単位でみると単身者 124,564円、夫婦1人当たり 95,818円となる。
4. ニュージーランドの老齢年金制度の財政負担は、GDP比でみて2003年の3.6%が2050年には7.9%に増加する見込みである。費用の調達について税方式を継続するならば、国の財政配分との調整をいかに図るかという問題に直面するとされている。

■アイルランド

1. ■人口 488万人 ■人口一人当たりのGDP 906万円 ■消費税 23%
2. 年金制度は、無拠出制年金の国民年金と拠出制年金である国民年金、および企業年金・個人年金がある。無拠出制年金の国民年金が最低保障年金に相当する。
3. 「無拠出制国民年金」は、66歳以上で拠出制年金を受給できない者や低年金者の者が、資力調査付きの無拠出年金を受給することができる。
4. 資力調査では基本控除額が週€(ユーロ)30(3,227円)となり、勤労収入がある場合はさらに週€200(26,184円)まで控除される。また、€20,000(2618,400円)までの資産は認められる。
5. 満額の年金支給額は80歳未満が週€232(30,360円)、80歳以上が週€242(31,675円)となり、収入に応じて週€2.50(327円)刻みで減額される。
6. 66歳未満の被扶養者がいる場合、週最大€153.30(20,099円)の加算がつく。66歳以上の被扶養者の場合は、個人単位で無拠出年金を受給するため、加算の対象とはならず、被扶養者本人が週€153.30(20,065円)の無拠出年金を受給する。
7. 年金給付以外に、高齢者に対して各種の補足給付が支給される。単身者には単身手当が週€9(1,177円)、そのほか光熱費への手当や交通機関のフリーパスなど、資産調査なしで受給できる。暖房費の手当のみ資産調査がある。

3 消費税をめぐる議論

社会保障の内容を国際比較するときには必ず登場するのは、消費税をめぐる議論である。「日本の消費税は外国と比べても税率は低い」「社会保障を充実させるなら消費税率をもっと引き上げるべきだ」の類である。

日本に消費税が導入されたのが1989年。3%の税率で始まり、税率の引き上げが繰り返され、今や10%である(2021年)。その都度、政府は「社会保障、社会福祉の充実のため」と喧伝してきた。実態はどうか。2020年の時点で消費税収累計423兆円に対し、同時期の法人3税の減収累計307兆円、所得税・住民税の減収累計280兆円である。消費税が法人税・所得税・

住民税の減収の穴埋めに使われたのは明白である。そして社会保障は全分野にわたって改悪につぐ改悪である。

翻って、ヨーロッパや前述の最低保障年金制度のある国をみると、消費税(付加価値税)税率は、カナダ(5%)以外は日本(10%)より高く設定している。これをもって各国の消費税の高さを云々することはできない。例えば、高い理由の第1の理由は、その税収の多くを社会保障に還元している。スウェーデンでは、教育費が無料であり、相続税がない。デンマークでは教育費や医療費が無料である。

第2の理由は、消費税が高い国は軽減税率・ゼロ税率の商品が多いことである。

消費税率が25%のスウェーデンでも、食料品や宿泊費は税率12%となっており、書籍やコンサート・スポーツのチケットは税率6%となっている。

消費税率は高く設定されていても、多くの商品で軽減税率・ゼロ税率が適用されているため、国民の負担は軽くなっているといえよう。

国名	人口 X1000 人 2019年	消費税(%) 2020年	名目 GDP 100万米ドル 2019年	名目 GDP (100万円) 2019年	名目 GDP 米ドル1人当 たり 2019年	名目 GDP 1人当たり(円) 2019年
アイルランド	4.882	23	398.59	44.251.462	81.637	9.063.340
ノルウェー	5.379	25	403.336	44.778.363	74.986	8.324.946
デンマーク	5.772	25	350.104	38.868.546	60.657	6.734.140
オーストラリア	25.203	10	1.380.208	153.230.692	54.763	6.079.788
スウェーデン	10.036	25	530.884	58.938.742	52.896	5.872.514
カナダ	37.411	5	1.741.497	193.340.997	46.55	5.167.981
ニュージーランド	4.783	15	206.936	22.974.035	43.264	4.803.169
フランス	65.13	20	2.715.518	301.476.808	40.319	4.476.215
スペイン	46.737	21	1.393.491	154.705.371	29.816	3.310.172
日本	126.86	10	5.148.700	571.608.674	40.791	4.528.617

総務省統計局[世界の統計(2021)]に基づき吉田務が作成

■参考文献

- ◇総務省統計局「世界の統計 2021」
- ◇「年金と経済」(2018. 7月号、2016. 4月号、年金シニアプラン総合研究機構)
- ◇厚生労働統計協会「保険と年金の動向 2020/2021」
- ◇Webサイト「mercer・CFA協会HP」(2021. 7. 2閲覧)
- ◇Webサイト「せかいじゅうライフHP」(2021. 7. 2閲覧)